

教授 **大宮 勘一郎** OHMIYA, Kanichiro

## 1. 略歴

- 1984年3月 東京大学教養学部教養学科第2・ドイツの文化と社会卒業  
1986年3月 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了  
1991年4月 共立女子大学国際文化学部専任講師  
1992/93年 ドイツ学術交流会 (DAAD) 奨学金によりドイツ連邦共和国マンハイム大学留学  
1996年4月 共立女子大学国際文化学部助教授  
2001/02年 アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究奨学金によりドイツ連邦共和国ベルリン自由大学研究滞在  
2002年4月 慶應義塾大学文学部助教授  
2005年4月 慶應義塾大学文学部教授  
2007年4月 慶應義塾大学大学院文学研究科委員兼任  
2011年4月 東京大学文学部・大学院人文社会系研究科教授 (現職)

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

ドイツ近現代文学

### b 研究課題

ヴァルター・ベンヤミン研究、ハインリッヒ・フォン・クライスト研究

### c 主要業績

#### (1) 論文

- 大宮勘一郎、「語らいながら徐々に思考が出来上がる」、『『過去の未来』と『未来の過去』—保坂一夫先生古稀記念論文集』、2013.3  
大宮勘一郎、「クライスト 2001/2011」、『研究年報』、30、2013.7  
大宮勘一郎、「ブルーノ・タウトからベンヤミンへ —そしてその先—」、『思想』、1075、140-154 頁、2013.11  
Kanichiro Omiya、「Von der Anamorphoskopie zur Paramorphoskopie „Übersetzen“ nach Benjamin」、『Simultaneität・Übersetzen (Stauffenberg Kolloquium 70)』、2013.11  
大宮勘一郎、「人間の言語から物の言語へ —ホーフマンスタール「手紙」再考—」、『藝文研究』、105-2、241-254 頁、2013.12  
大宮勘一郎、「ポール・オースターの系譜学 —中期作品について—」、『れにくさ』、Vol. 5、2014.3

#### (2) 学会発表

- 国際、大宮勘一郎、「創設としての翻訳」、World Literature and Japanese Literature in the Era of Globalization、東京大学、2013.3.4  
国際、Kanichiro Omiya、「Illness and Memory - The Case of Aby Warburg」、IKKM-Lecture、IKKM、Bauhaus-University Weimar, Germany、2013.12.11

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

- 特別講演、IKKM of Bauhaus University of Weimar, Germany、「Illness and Memory - The Case of Aby Warburg」、2013.12  
特別講演、IKKM of Bauhaus University of Weimar, Germany、「The So-Called Japanese Romanticism in 1930s」、2014.1